

7月号の目次

2・3面

- 悠遊 鉄道の旅 群馬県下仁田町



- ぶらっと東京街角 ミュージアム

4面

- 新口コモをとめよう 健康寿命を全うするために

5面

- 健康クッキング

7面

- この人と1時間



細谷 亮太さん

8・9面

- 熱血対戦 熱闘に彩られた一世紀 「夏の甲子園」ことして百回
- 映画
- 逸品 桜えび
- 演芸

10面

- 2020を味わい尽くせ!
- 新司法八方 弁護士の日
- 万葉のこころ
- いまさら聞けない インターネット

11面

- 昭和の風景
- 下重晴子の出会ったひとびと

13面

- 紙面が語る 衝撃のあの日
- 駅前界限 JR青梅駅

14面

- 三字熟語コネクション
- ときめき川柳 新鮮組

15面

- 投稿コーナー
- ああ漢ちがい

16面

- 首都圏 酒蔵めぐり 高嶋酒造

今月のプレゼント 16面



絵・杉浦 孝明

街の隅

長年腰の痛みとしびれに苦しんでいた妻が入院し手術に踏み切ったのは先月中旬のこと。背骨に人工骨を埋めポルトを打ち込むという大手術だったが無事成功し、三日目にはもう院内を歩き始めた。医師の腕と医療の進歩は驚きである。

入院以来オジサンはひとり暮らしとなり慣れない食事作りや掃除、洗濯、病院通いと悪戦苦闘の日々。朝な夕なに口から出たのは「まいもつれしい。」

（哲）

「まいもつれしい」というつぶやきだ。それにもまして毎夜の孤独な食の味気なさ、寝る時は思いがあれこれ乱れてよく寝つけない。いれば何かと口うるさいことも多いがいなければ張りがない。夫にもいつかは独りにならなければならない。夫にもいつか歩は驚きである。

まいもつれしい。夫にもいつか歩は驚きである。

天の川で、地上で「星の契り」

七月七日は七夕。ひこ星と織り姫星が天の川を渡って年に一度出会う、ファンタステイックな「銀河の恋の物語」。地上では七夕竹に短冊を飾って、星に願いを込める。

ひこ星はわし座のアルタイル、織り姫星はこと座のベガ。天の川を隔てて輝く二つの星は「七夕のころ、接近する」と山本健吉も書いている（基本季語五〇〇選）。年に一度の逢瀬は「星の恋」の伝説として刻まれた。この伝説は万葉人の心を深くとらえ、星の妹背、星の契りなどとして数多く詠まれていた。

時は移ろい、平成の世。時空を超えて、星の恋の舞台を光で演出したのが東京タワー（東京都港区芝公園）の「二天の川イルミネーション」。

「メインデッキ（高さ百五十メートル）一階の特設ステージには天の川をイメージした青や白の無数の星が帯状にきらめく。白いひこ星と赤い織り姫が寄り添うように輝いている。」

メインデッキに向かう六段階の外階段もイルミネーションで飾られ、青い光の階段が続く。LED（発光ダイオード）約十四万個という光ファンタジー。夏バケーションに彩られた七夕の夜を楽しむカップルたち。夢の世界から、愛のささやきが聞こえてくる。（七）

イベント&アクセス 東京タワー-天の川イルミネーション=9月2日(日)まで。メインデッキの点灯時間9:00~23:00。都営地下鉄大江戸線-赤羽橋駅徒歩約5分。東京メトロ日比谷線-神谷町駅7分。東京タワー TEL 03-3433-5111